松香フォニックスのカリキュラムに基づいた小学校英語教育の実践

藤本アダムソン直生

キーワード
フォニックス、松香フォニックス研究所、幼稚園、小学校におけるカリキュラム案

1．信州豊南短期大学における児童英語教育の概要

信州豊南短期大学では、今年の５月より毎週土曜日に、小学生を対象とした英語の授業を行っている。児童たちは、地元である長野県辰野町をはじめ、岡谷市、箕輪町、伊那市などから延べ６０人が集まった。クラスは、１・２年生、３・４年生そして５・６年生と学年ごとに３つに分けられ、それぞれ２０人の児童が学んでいる。１学期（５月～７月）に１０回、２学期（９月～１１月）に１０回、さらに３学期（１月～３月）に９回と、合計で年間に２９回の授業を行う計画である。

この授業のカリキュラムは、松香フォニックス研究所で提案された「幼稚園、小学校におけるカリキュラム案」（松香洋子．１９９３年：９４-１００）を基にして作られた。授業のねらいは、英語の行事、歌、ゲーム、絵本などを通して、子供に楽しく英語を学ばせることである。また、高学年（５．６年生）の児童には、フォニックスという英語の綴り方の勉強法を通して、英語を自力で読んだり、書いたりできるようにさせたいというねらいもある。

この論文は、小学校英語教育学会紀要(JES Bulletin)第３号、2002年へ寄稿したものである。信州豊南短期大学紀要へ記載するに当たって、若干補正を施した。［筆者］

2．カリキュラム

松香フォニクスの指導法において、子供に英語を教える時のキーワードは、「楽しく」ということのようである。そこで、子供に楽しいことを体験させながら英語を教えるために、１ヶ月に１回程度、英語を使う行事を計画している。その行事については、松香フォニクスのカリキュラム案（松香洋子．１９９３年：９９）を基に、表３：授業日に併せて、表１：行事（全学年共通）の通り、アレンジした。なお、表２：各段階における授業内容については、松香（１９９３：９９－１００）の提案をそのまま用いている。

表１：行事（全学年共通）

５月…母の日	10月…ハロウィーン	１月…クッキング・ディ
６月…父の日	11月…オープンクラス	２月…バレンタイン・ディ
７月…オープンクラス	12月…クリスマス	３月…オープンクラス

表２：各段階における授業内容と目標

	● 第１段階 【小学1～2年】 （２年間）	● 第２段階 【小学3～4年】 （２年間）	● 第３段階 【小学5～6年】 （２年間）
歌とチャンツ	・毎月、今月の歌を１つ選ぶ ・特に動作つきのもの	・毎月、今月の歌を１つ選ぶ ・チャンツもよい	・毎月、今月の歌を１つ選ぶ ・長いものでも歌える
動作	・動作動詞を５０ぐらい使って、身の回りのことをわからせる		
ゲーム	・単語を中心としたゲーム ・音声的に沢山の単語を教える	・アルファベットや数字を使ったゲームなど	・文章を使ったゲームなど

絵本	・毎月、今月の本を1冊選び、読み聞かせる ・声を合わせて言う	・毎月、今月の本を1冊選び、読み聞かせる ・声を合わせて言う	・毎月、今月の本を1冊選び、読み聞かせる ・自分で読む
会話	・あいさつ、礼儀作法の言葉など	・4～6行程度の会話を相手とできる	・時々は自分で考えた会話も入れて10行ぐらい話せる
質問		・質問にどんどん答えられる	・100コの質問を自分からもできる
フォニクス		・アルファベットの練習	・規則的なものは自力で読める

（松香．１９９３年：９９－１００）

表３：授業日

回数	1学期	回数	2学期	回数	3学期
1	5月11日（土）	11	9月21日（土）	21	1月11日（土）
2	5月18日（土）	12	9月28日（土）	22	1月18日（土）
3	5月25日（土）	13	10月5日（土）	23	1月25日（土）
4	6月1日（土）	14	10月12日（土）	24	2月1日（土）
5	6月8日（土）	15	10月19日（土）	25	2月8日（土）
6	6月15日（土）	16	10月26日（土）	26	2月15日（土）
7	6月22日（土）	17	11月9日（土）	27	2月22日（土）
8	6月29日（土）	18	11月16日（土）	28	3月1日（土）
9	7月6日（土）	19	11月30日（土）	29	3月8日（土）
10	7月13日（土）	20	12月7日（土）	30	

なお、この授業で使用している教科書や絵本、ＣＤについては、表４、表５に見られる通り、すべて松香フォニックスで作られたものを採用している。

表4：教科書

「やさしい英会話Pam and Ted」& CD 松香フォニックス研究所・正進社（1年～6年）

「Keypals 0 ― 英語で友達をふやそう ー」松香フォニックス研究所（1年～6年）

「Take off with Phonics Book 1, 40時間でフォニックス」（5年～6年）

「Take off with Phonics Book 2, 40時間でフォニックス」（5年～6年）

表5：教室で用いるその他の教材

「歌とチャンツの絵本」&CD

「Brown Bear Brown Bear, What Can You See?」& CD

「From Head to Toe」& CD, 「The Foot Book」& CD,

「In a People House」& CD, 「Bears in the Night」& CD

「The Very Hungry Caterpillar」& CD, 「Peanut Butter and Jelly」& CD

「The Lady with the Alligator Purse」& CD, 「Draw Me a Star」& CD

3．成績評価の方法

筆記テスト等での評価はしない。各学期の最終日（1学期：7月13日、2学期：12月7日、3学期：3月8日）に、保護者を招いて発表会または公開授業をする。

表6：60分授業の例（1・2年生クラス）

1分	1．始まりの挨拶	T:Good morning,everyone Ss:Good morning,Mrs Adamson
3分	2．英語の歌	Head,Shoulders,Knees and Toes CDを聞きながら、体の部分をリラックスしながら歌う。

10分	3．英語の絵本	①絵本 'Brown Bear,Brown Bear,What Do You See?'をCDで通して聞く。 ②CDの後について手拍子をつけ、リズムに合わせて、1文ずつ読む
15分	4．ぬり絵	絵本 'Brown Bear,Brown Bear,What Do You See?'に、登場する動物にクレヨンで色をぬる。 T:What is this? Ss:Red bird. T:What colour is this? Ss:Red,赤 T:Yes,thst's right. それじゃあ、赤く色をぬって下さい。 Brown bear,yellow duck,blue horse, purple cat,green frog,なども同様に色をぬる。
15分	5．英語の表現	教科書「やさしい英会話Pam and Ted」 ①P1～P3まで、CDで聞いて、復習。 ②P4、"Ah-choo!" "Bless you."の表現をCDで聞く ③絵をみながら、教師の後について発音練習する。 ④教師対生徒全員のロールプレイ ⑤ペアになり、3回ずつ練習 ⑥みんなの前でペア発表 ⑦同様にP5とP6の表現も練習して発表
14分	6．アルファベットの練習	大文字G～Lの練習、 教科書「Keypals 0」P48を使用。
2分	7．まとめ・終わりの挨拶	T:Good bye,everyone. Ss:Good bye,Mrs Adamson T:See you next week. ss:See you.

表6に挙げたのは、1・2年生クラス（60分）の授業案の一例である。これは、6月8日（土）実際に行われた授業である。この授業では、（1）始ま

りのあいさつ、（2）英語の歌、（3）英語の絵本、（4）ぬりえ、（5）英語の表現、（6）アルファベットの練習、（7）まとめ・終わりのあいさつ、と7つの活動で成り立っている。

4．小学校英語教育における文字の導入について

ここで、注目したい活動は、（3）英語の絵本と（6）アルファベットの練習である。文部科学省（２００１年: 5）によると、「小学校における英語活動では、基本的に、音声を中心に扱う」ということである。この点では、松香フォニックスの指導法も同じ姿勢を取っているが、文部科学省ではさらに、小学校段階におけるアルファベットをはじめとした文字の導入を次の通り禁止してる。「日本語とは音声、文字、文法、語順、などが異なる英語をすべて同時に導入することは、子どもの学習にとって大きな負担になり、英語嫌いを生み出す大きな要因となる。したがって、小学校段階では、音声と文字とを切り離して、音声を中心に指導を心がけることが大切である。」（文部科学省. ２０００: １５）しかしながら、この点では松香フォニックスと文部科学省のスタンスにかなりの違いが見られる。

（1）文字を導入することの意義

フォニックスとは、正式な日本語訳では「音声法」と呼ばれている。そして、それは日本語の「あいうえお」が文字と音声が一致した表記法であるのに対し、英語のアルファベットは音声とほとんど一致していない。そのため、日本人の5歳児の子供が平仮名で書かれた文字をすらすら読めるのとは異なり、アメリカ人の5歳児は英語の読み書きがほとんどできないようである。そこで、フォニックスが必要となってくる。（松香洋子.２０００）「例えば、bという文字は「ブ」という音だ、ｅという文字は「エ」という音だ、dという文字は「ドゥ」という音だと習う」そのため、「これを学ぶことによって子供は初めてｂｅｄという単語を見た時に、それを声に出して読むということができる」（松香.

２０００：１２）

また、松香（２０００）は、フォニックスを学ぶ利点の１つとして、子供の「自主性を育てる」ということを挙げている。「フォニックスは、それ自体を学ぶことが目的ではなく、あくまでも、子供や生徒が独り立ちするのを手伝う」（松香．２０００：３１）ということである。彼女は、従来の教師中心の英語学習について、次のように批判している。「従来、英語の教育は、先生が百を知っていて生徒はゼロという想定で行われてきました。こういう考えに基づくと先生は生徒に教えることを大声で言い、生徒はひたすらそれを覚えるということになってしまいます。ですから、英語の勉強は暗記につきると言われてきたのです」（松香．２０００：３２）。

（２）父の日のカード作りを通して

このような視点を考慮した上で、筆者はあえて小学校段階における文字の導入を行っている。６月１５日（土）には、父の日にちなんで全クラスでカード作りを行った。１・２年生のクラスでは、アルファベットの大文字をまだすべて勉強していなかったため、表紙の「To Father」、カードの中身のメッセージ「Happy Father's Day」をあらかじめ印刷したものを使い、お父さんの似顔絵と共に自分の名前のみを英語で書かせた。３年生から６年生までのクラスでは、表紙の宛名も中身のメッセージもすべて本人に書かせたが、ボランティアの保護者の方々に手伝っていただきながら、子供たちは立派なカードを作った。この日は、市民新聞グループ（岡谷市民新聞・下諏訪市民新聞・諏訪市民新聞・茅野市民新聞・たつの新聞・みのわ新聞・南みのわ新聞）の記者の方が１・２年生クラスに取材に見えた。子供たちへのインタビューによると、「アルファベットを書く練習がおもしろいです。」（小学２年生）とのことだ。筆者自身も、これほど子供たちが文字を書くことに興味を持っていたという事実に驚かされた。

5．結　論

小学校の英語教育は、中学校や高校と違い小学生の特色を生かした方向で行われなければならないと言われている。本校のカリキュラムでは、歌やゲーム、絵本などが、小学生の特色を生かした活動であると言える。８年間、中学校で英語教師として教えてきた筆者にとって、小学１年生から６年生の英語を担当するということは、大変なチャレンジであった。特に、低学年では注意力や集中力の持続時間が短いため、１時間の授業の中にさまざまな活動を取り入れる必要がある。表６では１，２年生のクラスで実際に行われた内容が示されている。例えば、この日の絵本は "Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?" であったが、そこに３つの活動を組み合わせた。まず、絵本をＣＤで聞き、次に手拍子のリズムに合わせて読み、さらに絵本に登場する動物に色をぬるという活動である。後半には、アルファベットの練習を取り入れているが、文部科学省が懸念するような「英語嫌いを生み出す大きな要因」（２００１：５）とは、なりえないように思われる。むしろ、文字を導入することにより、子供たちの英語に対する興味が、高まるきざしが見えている。

参考文献

松香洋子．１９９３．『子供に英語をしゃべらせたい　ー児童英語教育、私の方法ー』．
東京：ＫＫベストセラーズ

松香洋子．２０００．『アメリカの子供が英語を覚える１０１の法則』．
東京：講談社

文部科学省．２００１．『小学校英語活動実践の手引き』．東京：開隆堂